

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	東成区
学 校 名	中本小学校
学校長名	宮浦 利行

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・中本小学校では、第6学年 47名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- 学校平均正答率
国語科72.0 (市平均65.0 全国平均66.8) 全国平均との比較では+5.2
算数科65.0 (市平均58.0 全国平均58.0) 全国平均との比較では+7.0
理科 60.0 (市平均55.0 全国平均57.1) 全国平均との比較では+2.9 であった。
- 評価の観点から見た傾向
国語科 知識・技能は 78.0 全国平均74.5 算数科 知識・技能は 69.7 全国平均65.5
理科 知識・技能は 57.1 全国平均55.3 と全国平均を上回る。
- 児童質問紙
「国語の勉強が好きですか」 肯定的な回答の割合 68.9 全国平均58.3
「算数の勉強が好きですか」 肯定的な回答の割合 60.0 全国平均57.9
「理科の勉強が好きですか」 肯定的な回答の割合 77.7 全国平均80.1
国語、算数について上回っているが、理科については下回っている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

- 〔国語〕
・単元テストでよくみられる選択式や短答式の問題形式だけではなく、記述式の問題においても全国平均を上回ることができた。しかし、3観点の中では「書くこと」の観点において全国平均との差が少ない。「書くこと」への指導を工夫する。
・学期末に行っている漢字の復習テスト「ぐんぐんチャレンジ」の取組が学習意欲の向上につながり学力の定着を図ることができている。
- 〔算数〕
・5つの領域すべてにおいて全国平均を上回ることができた。学校独自の取組である「放課後レベルアップタイム」の時間を中心に下位層の児童への支援を行い基礎学力の定着を図ってきた成果であると考え。
- 〔理科〕
・4つの領域すべてにおいて全国平均を上回ることができた。観察することや実験することを重視した授業を工夫してきた。平均無答率も低いことから児童が興味をもって取り組むことができていた成果であると考え。

質問調査より

- ・主体的・対話的で深い学びの授業をめざして交流活動を中心とした授業研究に取り組んでおり、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広めたりすることができている」の項目で肯定的な回答が全国平均との比較で+13.4と大きく上回っており、成果が表れていると考える。
・「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じますか」の項目で全国平均との比較で+6.4となっており、各教科で学習したことの意味を知り積極的に実生活に生かそうとしていることがわかる。

今後の取組(アクションプラン)

- 「主体的・対話的で深い学び」や「基礎基本の徹底反復学習」の継続を図る。
○指導法について学校内で交流伝承を今後も図り、指導力の向上を図っていく。
○「自主学習ノート」の見本掲示板を、今後も活用し、すべての児童に主体的な学びの習慣化を図る。
○ICT活用を教員の研修テーマとして組織的に取り組み、指導力の向上を図る。
○個に応じた学習や学力の定着を図る「わかる、できる」授業に取り組む。